

管、烟草ヲ納メタルモアリ、

眼鏡ハ、視力ヲ助クルモノニシテ、老眼鏡、近眼鏡等アリ、又蟲眼鏡、望遠鏡等ノ數種アリ、而シテ天象ヲ見ルニ用キル眼鏡ノ事ハ、方技部天文道篇ニ載セタリ、

褻器ハ、便器ノ總稱ニシテ、械、虎子、清器、尿管等ノ別アリ、後世小兒ノ便器ヲ、マル又オカハト

モ云ヘリ、

衣架名稱

〔倭名類聚抄十四具〕衣架 爾雅注云、籠音移、字亦作籠、懸衣架也、

〔箋注倭名類聚抄六具〕按、美會加介、又見空物語藏開上卷、源氏物語葵卷、今俗呼衣桁略、玉篇

廣韻禮記曲禮正義、皆曰、櫛衣架也、無懸字、此或衍、按說文、無籠櫛字、只有櫛字、云落也、玄應音義云、櫛櫛籬三字引通俗文云、柴垣曰櫛、知櫛即籬落字、可訓萬賀岐衣架狀似之、故轉名衣架為櫛、又隸

増作櫛、後變從竹也、

〔伊呂波字類抄雜物〕衣架 亦イカカケ

〔運步色葉集伊〕衣桁 衣カケザナ

〔和漢三才圖會三十二具〕衣桁 衣架 衣籠 衣櫛 和名美會加介 概架略

按、衣櫛、和名美會者衣也、掛衣也、

〔倭訓栞前編三〕いカ 衣架はみぞかけといへり、今は衣桁といへり、されど衣桁は衣を曝すの竿

揚也、よて杜詩に翡翠鳴衣桁と見えたり、俊賴

さ、がにのいかにかゝれるぶぢばかま誰をぬしとて人のかるらん

〔物類稱呼四器用〕衣架かけさほ俗稱 上野にてみせさほ、下總猿島郡にてみぞと云、筑紫にてなら

しと云、今按にみぞは御衣なり、そはさほの反をなればみぞと稱するは、古き詞なるべし、

疑らくは、平將門の時代の遺風にてやあらんか、又世に衣桁をみぞかけといふも同じ心也、杜甫